

分相応の生き方が 安心のもと  
背伸びもせず 卑下もせず  
自分を知り 他人を理解し  
怠けもせず 無理もせず  
一日一日を大切に生きたいもの

「分をわきまえなさい」ということを聞きます。『分』とは何でしょうか。自分という言葉が普通に使います。

国語的には、分かる、分かれる、別々にして離す、割る、見分ける、区別する等の意味があり、分解、分離、分割、分業、分散、分子、分野、分担、分類、分量、分領、本分、応分等の用語として使われています。

この世の中は、私と他人から成り立っています。私の生活があれば他人の生活もあります。私と他人が両立し上手くいっているときに、私たちは幸せと喜びを感じます。上手くいかないときには落胆や心に大きな傷を負います。

私には私の、他人には他人の範囲と領域が必ずあります。特に、踏み込んではいけない、侵してはいけない部分があります。踏み込んだり踏み込まれたり、侵したり侵されたりしない私と他人との関係、相互の心づかいが『思いやり』でしょうか。

それぞれが、私の出来ることと出来ないことを知り、為すべきことと為してはいけないことを認識し、私の義務と責任を自覚した生き方を、みんなで実行していったならば、すばらしい世の中になると考えます。それぞれの私が『自分』を知り、足りないところを補い合える生活であったら幸せ一杯でしょうね。

家庭における夫婦や親子の間で、職場における上司と同僚の間で、学校での教師と生徒の間で、生徒と生徒の間で、そのようにあってほしいものです。

お互いが、お互いの良さ、資質能力を分かり合い、お互いが備えている力を出し合い、足りない部分を協力・補完し合う、そのような人の集まりであってほしいものとの願いは、全ての人の願いであると信じています。

